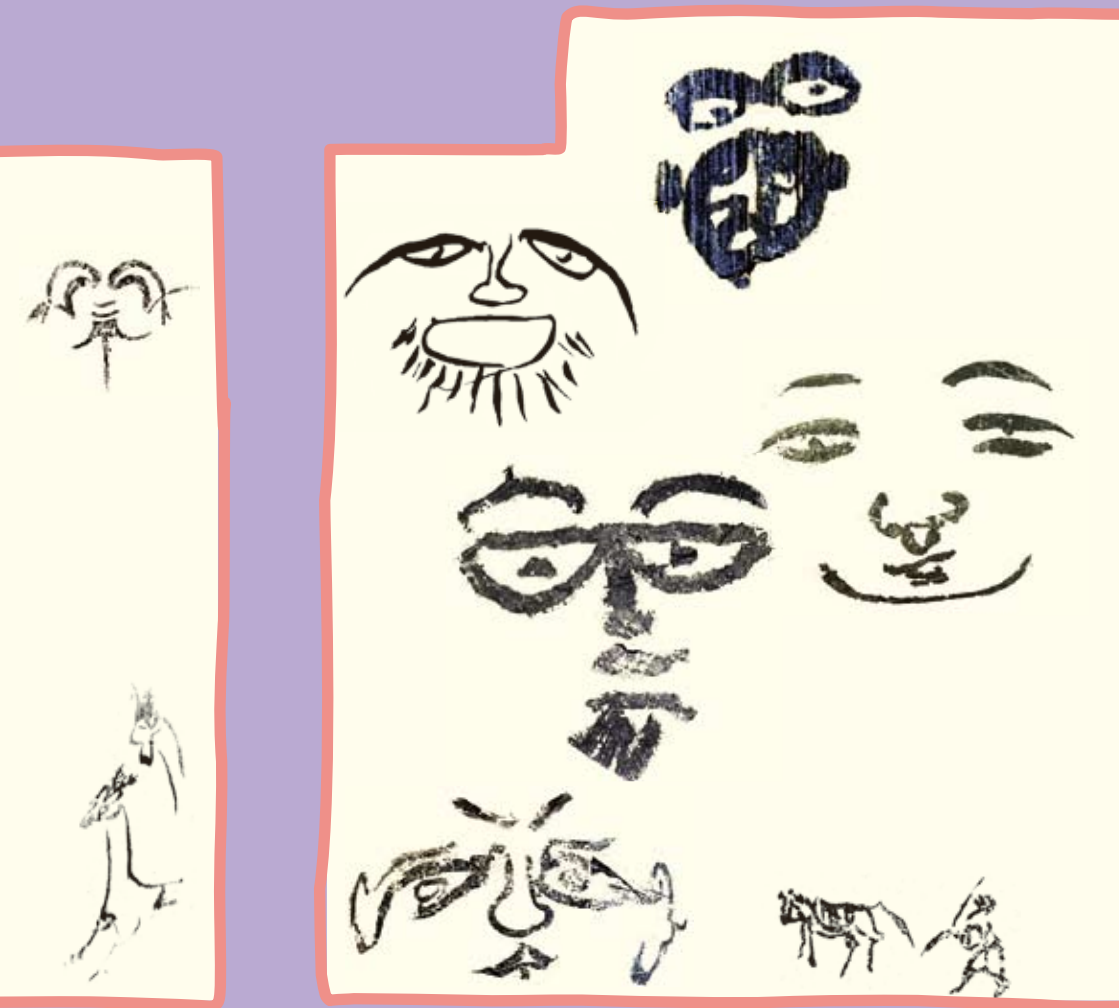


奈良市埋蔵文化財調査センター



〒630-8135

奈良市大安寺西二丁目 281

TEL. 0742-33-1821 FAX. 0742-33-1822
E-mail. maizoubunka@city.nara.lg.jp

旧石器～縄文時代

(40000年前～2800年前)

狩猟と採集で食糧を確保し生活していた時代です。旧石器は市内各地で出土しますが、明確な生活跡はほとんど見つかりません。縄文時代には、土器を使って煮炊きができるようになりました。奈良市の東部山間地域で縄文遺跡が多く確認されています。



市内各地出土の旧石器



縄文時代早期深鉢(柚ノ川イモタ遺跡)



縄文時代石器(水間遺跡)



柚ノ川イモタ遺跡



縄文時代中期深鉢(柚ノ川イモタ遺跡)

弥生時代

(2800年前～1750年前)

大陸から水田農耕が伝わり、稲作文化を基盤とする社会が生まれました。中期には金属器も登場し、銅鐸などの祭器もつくられました。墳丘のある周溝墓が現れ、古墳へとつながっていきます。



弥生時代石器(市内各地出土)



弥生時代中期土器(柏木遺跡)

方形周溝墓(柏木遺跡)

古墳～飛鳥時代

(1750年前～1300年前)

各地で前方後円墳がつくられるようになり、古墳時代が始まります。大和・河内を中心に全長 200 m 以上の巨大な古墳が分布し、広域をまとめる王権が出現しました。佐紀古墳群は巨大古墳が集まる大型古墳群の一つです。7世紀になると、前方後円墳の築造が停止し、飛鳥地域に王宮が固定化しました（飛鳥時代）。やがて、その北方に藤原京が造営されます。



三角縁神獸鏡 (弥勒寺蔵)



円筒埴輪 (菅原東遺跡埴輪窯跡群)



五柱神古墳

佐紀陵山古墳

佐紀石塚山古墳

菅原東遺跡
埴輪窯跡群

宝来山古墳



土師器・須恵器 (菅原東遺跡)



鉄製甲冑 (ベンシヨ塚古墳)



碧玉製品 (市内各地)



鞍金具 後輪 (ベンシヨ塚古墳)



赤田横穴墓群



ヒシヤケ古墳

ヨナベ古墳

ウワナベ古墳

佐紀古墳群



陶棺 (赤田横穴第5号墓)

奈良時代

(710年～794年)

唐の長安城をモデルとした都、平城京が^{みやこ}つくられます。その大半が奈良市域に広がっていました。当時の最新文化や国内外の文物がここに集まりました。食事を箸で食べる習慣が根付き、貨幣経済を初めて経験しました。また、木材資源の大量消費によって周辺地域の環境破壊が進行していきました。



はじき すえき
土師器・須恵器の食器



木製の食器と容器



須恵器の壺・瓶



円面硯



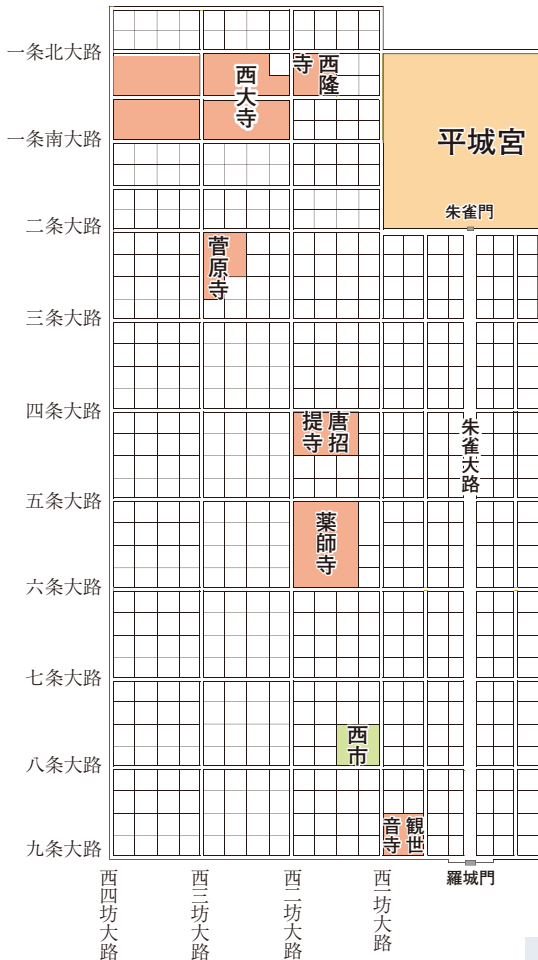
宝珠硯



櫛



ひわうぎ
檜扇





鬼瓦 (大安寺)



軒瓦 (大安寺)



イスラム陶器



人面墨書土器・人形



おもり
ものさし・錘



奈良三彩



唐三彩



げた きぐつ
下駄・木履



帯金具



銭貨

平安～戦国時代

(794年～1603年)

都が平安京へ遷りますが、東大寺などの主要寺院はそのまま残されました。やがて興福寺が強大な勢力をもつようになり、実質的に大和を支配していきます。これらの寺社の周辺に門前郷が発達し、南都として栄えました。



瓦器 (橈・皿)



輸入磁器

土坑墓 (西大寺旧境内)



土師器 (皿)



腰刀と轡



ひるもきん
蛭藻金



埋葬遺構 (奈良町遺跡)

備前大甕

江戸時代

(1603年～1868年)

奈良は幕府が直接支配する直轄領となり、奈良奉行所が置かれました。門前郷は奈良町として発展し、現在につながる町割りがつくられました。17世紀に棧瓦が発明され、町屋に瓦葺き屋根が普及していきました。



肥前産磁器 (大皿)



奈良町遺跡 (今小路町)



国産陶磁器 (椀・皿類)



両棧瓦

埋蔵文化財でみる奈良市の年表

	年代	主な遺跡・遺構（できごと）	主な遺物
旧石器時代 (後期)	B. C. 40000		ナイフ形石器・翼状剥片
縄文時代	B. C. 12000	杣ノ川イモタ遺跡 水間遺跡	深鉢 石鏃・石匙など
弥生時代	B. C. 800 } 500	ゼニヤクボ遺跡 柏木遺跡	弥生中期土器 石鏃・石包丁など
古墳時代	250頃	佐紀古墳群 菅原東遺跡 ベンシヨ塚古墳 菅原東遺跡埴輪窯跡群 赤田横穴墓群	三角縁神獸鏡（弥勒寺蔵） 碧玉製品・玉類ほか 鉄製甲冑・鞍金具 円筒埴輪 陶棺
飛鳥時代	592	帯解黄金塚古墳	
奈良時代	710	平城京跡	和同開珎
	752	(東大寺大仏開眼)	唐三彩・イスラム陶器
平安時代	794	(平安京遷都)	
		土坑墓[西大寺旧境内]	腰刀と轡
	1181	(南都焼き討ち)	輸入磁器
鎌倉時代			瓦器・土師器皿
室町時代		埋甕遺構[奈良町遺跡]	備前大甕
(戦国時代)	1567	(東大寺大仏殿再び炎上)	蛭藻金
江戸時代	1603	(奈良奉行所を設置) (国産磁器の流通) (棧瓦葺きの普及)	国産陶磁器 両棧瓦

遺跡を掘る

発掘調査

遺跡の発掘調査は、昔の柱穴や井戸などの遺構が見つかる深さまで表土を除去することから始めます。そして、丁寧に土の違いを観察しながら遺構を見つけ、その中を掘っていきます。遺構の掘削が一区切りついたところで、写真撮影や実測図化を行い、遺跡の記録を作成します。



遺構の掘削作業



実測図の作成



写真の撮影

出土品の整理

出土した遺物は、センターへ持ち帰ってきれいに洗浄します。出土場所の情報などを遺物に記したあと、それを分類し復元していきます。復元できた遺物は、写真撮影や実測を行って記録します。

出土遺物の内容を合わせて発掘調査の記録を作成し、広く公開することで埋蔵文化財の活用が可能となります。



洗浄



接合



復元



実測